

「ビックレスキューかながわ」平成30年度神奈川県・海老名市合同総合防災訓練  
災害救援ボランティアセンターの運営訓練を実施！（社協・災ボラ）

2018年8月26日（日）実施

① 被害想定など訓練の条件の設定

災害復旧のためにボランティアの受付、派遣のために開設される「災害救援ボランティアセンター」の立ち上げ訓練を、実践に即して実施しました。

【開催日時】平成30年8月26日（日）9時～13時

【中央会場】神奈川県立相模三川公園（相模川の河川敷及び公園事務所）

海老名市総合福祉会館（福祉避難所を想定）、下今泉コミュニティセンター（一般避難所を想定）

【訓練での被害想定】首都直下型地震（海老名市を含む広域災害）

【地震規模】マグニチュード7.3、最大震度6強

【災害救援ボランティアセンターの開設及び運営】に関する訓練

発災後72時間が経過し、大きな余震も減少し、被災状況がある程度わかるようになり、海老名市災害対策本部の要請により、海老名市災害救援ボランティアセンターが海老名市社会福祉協議会及び海老名災害ボランティアネットワークなどを中軸として設置された状況を想定した。

② 被災者対応訓練（被災者ニーズ把握⇒ボランティア派遣の可否等の判定）

・【被災者ニーズ受付・把握】

被災者からの各種ニーズを被災者や避難所などから受けた。

・【ボランティア派遣の判定】

ニーズに基づきボランティアの派遣先などを決めた。

・【ボランティア受付・登録班】

ボランティアの参加者が、氏名・住所・連絡先などを「登録票」に記載し、受付に提出、ボランティア登録を行った。

・【マッチング・送り出し班】被災者ニーズとボランティアの活動希望を結びつけ、ボランティアの安全を確保した上で、被災先へ送り出した。

・【活動資機材班】

ボランティアに必要な資機材を貸し出し、活動後に返却を受けた。

・【帰着報告受付班】ボランティアが帰着したら、ボランティアが安全に作業実施した帰着したか報告を受ける。また活動中に得た各種情報についても報告を受けた。

③ センター本部機能・総務の訓練 ⇒ 総務・渉外班、情報班の活動に関する訓練

・総務・渉外班は、運営担当、広報担当、救護担当に分かれる。運営担当は、海老名市災害対策本部および、関係団体との連絡調整を行なった。救援ボランティアセンター総務班のスタッフ（レスキューバイク隊など）を派遣し、情報収集訓練を行なった。

